



首夏 夏夜 端午 納涼

晚夏 花橋 蓮 郭公堂

蟬 扇 ○ 秋 立秋 早秋

七夕 秋興 秋晚 煉衣

八月十五夜月 九月九日 九月

女郎花 秋蘭 松 紅葉

鴈 出 鹿 露 霧 摘衣

○ 冬 初冬 冬夜 歲暮 煖火

霜 雪 冰 霰 佛名

和漢朗詠集卷下目錄

○ 雜 風雲 晴曉 松竹 草

鶴 猿 管絃 文詞 酒 山水

下古京故宮付殿仙家付道士

山家田家隣家山寺佛事僧

闲居眺望鏡別約臨庫中付

親王孫丞相付執將軍判使詠史

王昭君妓女遊女老人交友

懷旧述懷慶賀說燕多夢白

春立妻

逐吹潛用不待芳菲之候

逢妻欠愛將希雨露付燃

池凍東頭風度急忘梅小

面雪封寒

柳衰氣力條先動池有波

文冰盡開

背燭者情は若月踏花因情を
るるれ我乃やまのあやあしむ先のこ
多しそとて縁りやをのりあ

子日 付若菜

倚松樹以摩腰る風お 雜記也
和菜意を暖に和を味く 克爾也
倚松根以摩縹子年と 集友海子
お梅むら 挿頭二月と 雷落志

縁乃しはさる形をとりて
らよのたぬはあはくとむりま
子しおかまうくおさわねの松もろくまよらん
君よしひりまうくおさわねの松もろくまよらん
縁乃日しふ志をらんおさわねの松もろくまよらん
花乃そやあまのりまをまこ海

若菜

野中 若菜 世事 推之 惠心 抱下
和菜 俗人 居之 栽培 指
あまのりまをまこ海
19

あさりしつらふつらん
このよもふもほとあり
けしきこの人とのしるる乃
つらふつらんかたりとたり

三月三日 竹柗苑

春春通も花在求不辨仙源何
志之書月三朔天醉平花柗
感我后一日之海方棧 餅世水難
坐平坐雖絶来已多心誠若思

以就風流蓋志之律作船小序
煙霧幸之庭同戶 柗季溪源似
水成已字物三日源起用
礫石在来心竊約季流遠
秋由恰温者波之限所
吹不

暮

拂水柳花子方霞後梅寫

低翅沙鷗的為曉孔絲野鳥

人言亦何須惜年事長去道

刻白翁知今日好燈之此亦不喜何

三月盡

三月盡

留去之不強去海人舞老賦風

不覺風起舞海家

竹溪春深消水花亭我賦

惆悵去海首乃共春花下

送春不用知每車唯為病客

為使韶光知起至今有物

苗去不用笑城園花

このころのしほりんとおもしろいぬらぬら
きりりしほりんとおもしろいぬらぬら
もふもふおもしろいぬらぬら
あつあつおもしろいぬらぬら
まじまじおもしろいぬらぬら
このころのしほりんとおもしろいぬらぬら

二月

今年二月立春三月朔日
帰漢秋鶯の文運留於
碎林舞蝶を融花
一月は

花梅由根無着病多
人のあつあつおもしろいぬらぬら

鶯

鶯の鳴き声は
唯の松樹の啼く
幾つとあつあつおもしろいぬらぬら
因芳山鶯啼あつあつおもしろいぬらぬら

花

花の上を遊ばず酒を嗜むは山科月夜
手着の衣沈色深き盃酒水尤光燭火燭
を見え人家花役入多端そ賤と親疎
蒙日堂風高倭子頼方影くまはれ
深は表裏一入再入くわ
誰謂水无心流勢院古の愛色誰

花を少許種漾激号類動唇
欲謂之水則淫女艶粉之穠清愛
吾謂之花亦霜人淫久之病榮條
穢自何線唯着由裁無乞招任去風
花苑の錦委流粧穢去去月未去若
始穢春風横上巧也唯穢矣穢若若
暇多男郡裁殘錦耳偏奏城調若若

夜遊人跡為未起美合意想初也
おそしむつらうまそこのやま乃若つし
いんこのりしあまこくくきりり

款冬

照着誰黃天乃之款冬誤後者
書之忘有書相収於紙紙又未
わんのあくりさうひ川りり
いまやさうさうさうさうさう
りりとのやへ乃厚りもさう一えさう
りりのさうさうさうさうさう

友

懐望意興三月書は友記
紫友意興三月書は友記
そこ入ううのそこさうふやふや
かさうしてゆるびさぬさうさう
とさうさうさうさうさうさう
あくさうさうさうさうさう

夏更夜

宵燈然強續者燭燈也夜更
あきさうさうさうさうさう

生秋歎の如く著る境尚ほ色老
くさ乃まきりしあしたのたのた
こらりとくさくさあはるうさ

首夏

爽顔何茶経春緑店屋通入
著生石面程衣経花出心小益
こらやと乃うさくさくさあはるうさ
ありまきりしあしたのたのた

夏秋

風吹枯木晴天
風生竹夜
土夏
る川乃よと
人いそのよ
や
ひらり
夏乃
あ

端年

有河内高所先角を委さ坂園律あは
まのこまのしるふよあひるあやめくさ
あひとくわましくふるまへん
きのよとせよをにあひあやせん
まふまのやと乃法とさううふ

納涼

青若地上げはあ緑樹法あを暁涼
病葉は夢に飛舞清風縹緲道涼
不毛禪房は山空に性結心動あ涼

解舞婦園書之麻代名あ長忌
燕昭王招涼珠尚沙月あ白の
卧見新為院水清乃七有集納涼詩
池冷水無三伏夏松る風あ一亭様
あつこそまらるところあ乃さ
あさくふあうあささあ
むすあいつものあさ
まのうを乃いと井乃さあを結いあきを
夏たささああああ

酒の目目為眼加油花中
酒の目目為眼加油花中
酒の目目為眼加油花中
酒の目目為眼加油花中

郭公

一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外
一聲山鳥暖窓外

螢

螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝
螢火乱花枝

山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香
山徑春香

鶯子橋中 霜月秋林 暮色 一人長
暮色 涼人 乞 孩 背 也 悲 月 的 亦
黃 庭 海 裏 孤 舟 菱 榆 柳 受 既 方 里 志
わ し じ ゃ ろ 山 じ ゃ ろ の ね 乃 志 じ ゃ ろ 尾 能
あ り く し じ ゃ ろ と し じ ゃ ろ り も 福 じ
む じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と
い つ じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と じ ゃ ろ と
い 月 十 五 日 付 月
秦 甸 之 一 子 餘 里 涼 之 冰 鋪 漢

家 之 三 十 六 宮 池 之 粉 飾
織 錦 機 中 之 錦 相 思 之 字 橋 衣 衣
上 俄 添 怨 別 之 聲 耳
三 又 新 中 新 月 色 二 子 里 外 亦 人 心
嵩 山 表 裏 子 重 雪 洒 水 之 後 由 之 錦
十 二 日 中 無 務 於 夕 夕 好 之 音 之 聲
外 名 爭 於 若 家 之 光

碧海金波三物秋風計
自疑荷葉凝
片白雲迷
瑞池便是
金膏一滴
揚貴妃
あのおとよふて
このうしそあ
そあれり
かちあつ
ちける

月

誰人傷外之
秋水漲來
不飲恐中
天山不露
欲知
御波
心我
密探
秋一
世釣
漁船

不乞花中偏老菊
嵐陰欲暮莽
松柏
梅湖芝蘭之生也

郡縣村園皆
蘭苑自悲為
棠蕙苑出推
あろあろよ
とさまこと

九月畫

以請函力固
會重考而進
頭自既仍得
父家棠遷白
駒京河海

あろあろよ
とさまこと

あはれくゆくあさのうらさくはよとくおな
まのりしゆいあそありけり

女郎花

花文ゆ葉葉作呼為女郎園名哉哉
契借老恐悪妻花首似霜
をこるるーおほりり野色よわーりさ
あやなくあさ乃あそやありー
とるーみるよさるりあくさ
いしゆい乃あそとるー

萩

あつあつもまらさいてまもそとそくくひひ
曉露鹿島花始為百枝葉わくし
秋の好きーささうおのささほとた
わらわ福りそれささそあ
うらりびーささおさあささ
おきるささりよさけるはのり
あさののりけささみーささわがよ
いしゆいのあさささー

蘭

あつあつもまらさいてまもそとそくくひひ
花文ゆ葉葉作呼為女郎園名哉哉
契借老恐悪妻花首似霜
をこるるーおほりり野色よわーりさ
あやなくあさ乃あそやありー
とるーみるよさるりあくさ
いしゆい乃あそとるー



城柳言搖落搖落秋悲之老人心
梧楸於中一夢之雨之濕鷓鴣啼
上數行紅纒殘

樵蕪生五枝年年買良夜
傳遊履踏首推仙之樂

酒風落葉合菊蕊
逐秋光多景宛月每胡笳少漢林風

あとうがはりみらなぶあううん
やうせあきうとささしぬ
非ううさしくれとふうとあしん
見ふ人もあくてらりぬらわやまう
りみららうのあきさうりら

鴈 付帰雁

万里南を三春鴈水苑
月海と汝同輝

尋陽江色潮添満秋聲
雁声

床煙揺脚卷を於園望狀を心前記す
山館白河嶋自晴野亭風雲又織籠る
衆多色然を因は晴望座に也月之差
いまこんとそなれこ乃める舞秋れよと
あししるひつしまりむのあ
きりくいとてこあきとあれた乃転
ありあれたしんまわたまさわ

麈

蒼苔踏滑僧跡与紅葉声乾麈を林

暗巷念草身交書更跡如草樹風来
きみらそぬとたし乃やまんとむ
たつとよとら乃ふ
急のうらわあまはるる

露

可憐九月初之秋露似青瑤月似弓
露滴葉葉露垂玉白風動松松露垂
あししるひつしまりむのあ
きりくいとてこあきとあれた乃転
ありあれたしんまわたまさわ

身

竹亭暖統衛辰月既風晴るに春
雖熱夕旁埋人枕花を已朝云生馬駒
きくこ免乃あしきまわんらあさうつれ
しんかのやまんとこらくこ

擗衣

八月九月正長衣子於方なるに
如針星前換換乃も擗月下擗衣衣

擗衣時熱圍月次裁物杖寄る春

裁生衣生長短髪多熱をさる擗圍

風座者花裝袖奉月果の杖益を眉恒

年と別日一舊杖扇熱を熱をくお晴物

糸くありもうんけり月きく

冬物冬

十月江南天氣好
情冬景似春

いふに悉く花樹取射未終日有春
地時終碎雪花下近日那體歎成
くみまをすうわりのとま
うき

霜霜

三秋序雪花初白一夜林お葉赤紅
萬物秋お花結塊又四時各自取凋年
園寒を及鴛鳥或添孤婦も堪上山

深感動先修四皓之鬢多色

君子夜涼お不寝老相子映婦お老
聲とささかす鶴歩初鴛鳥首白髪人
晨積瓦漢窓お夜色秋空花散鶉音色
秋とささかす鶴とあんとあまやとく

雪

曉入梁王之苑雪海群山來也

おがらうらる月のひかり
かあるらんしあをまらりこかりしけ

春水

氷消見水多お地君あまのこ
氷消渾ま夜寝静もを海まい
胡香ほ結今使るる静も思失は遠
やまうは乃こわらまらるるらう
あふのこかりんかよやうら

愛

摩牙本新聲に脆新録珠又録
んわまらんいあはるらんし
まらるらんらんらんらんらん

佛名

香火一燈焼一盡白頭杖礼仏名經
香自淨心無用火花開合掌不因
わくままららんらんらんらん
はもものらんらんらんらん
かしらんらんらんらんらんらん
あらんらんらんらんらんらん

かきかきいれりあふはく
きくつてしりあふはく
きくつてしりあふはく

版

定年海壽朱元色花光

初冬

谁家田婦秋播
各月若風
石梓

各二句
各二句
各二句

和漢朗詠集卷上終

真

本

作

